

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 金沢市立森山町小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒920-0843

石川県金沢市森山町二丁目13番50号

E-mail : moriyama-e@kanazawa-city.ed.jp

Website : http://www.kanazawa-city.ed.jp/moriyama-e

児童生徒数：男子 155名 女子 162名 合計 317名

児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項1-2、2-1に対応

本校は金沢市の旧市街地の周辺部に位置しており、明治13年1月に開校し、今年度は創立138周年を迎えた。全校児童は317名、教職員は30名である。

校下は、昔ながらの商店街や住宅地が地域の大半を占め、近くに卯辰山や浅野川があり自然環境に恵まれている。金沢の観光名所である金沢城、東茶屋街に近く、また茶道で有名な寺院も多く、和菓子店、金箔店など金沢の伝統文化を受け継いでいる店も多く残っている。

ユネスコスクール認定を受け9年目となり、「地域の文化・自然や人との絆」をテーマに、地域の素材・題材を開発・教材化し、体験学習を取り入れた学びのプロセスを重視した持続発展教育の実践に取り組んでいる。

3年「発見 和菓子のひみつ」

7月1日、氷室の日に氷室まんじゅうを食べる風習を調べることで、子どもたちは、金沢には、「夏を元気に乗り切りたいという願い」や「氷室の氷を献上した歴史」があることを知った。和菓子の歴史や種類を調べていく中で、「正月の福梅や雛祭りの金花糖、婚礼の際の五色

生菓子など、金沢にしかない和菓子があること」「和菓子には、人々の幸せになりたい願いが込められていること」「季節や行事に合わせて、色や形、図案が工夫されていること」などを学んでいった。

秋には、自分でつくったお茶碗と和菓子で、お茶会を校下の寺院で行った。お茶会では、相手をもてなす心に触れることができた。和菓子づくりを校下の和菓子職人さんに習い、職人さんの和菓子づくりに込める温かい気持ちに触れることができた。その後、和菓子学習でお世話になった方へ手紙を書くなど、感謝の気持ちを伝える活動へとつながっていった。金沢に根づく文化のよさを感じ取り、「和菓子の消費が日本一である金沢」の人々の生き方に触れ、自分たちも昔から受け継がれてきた風習や、和菓子にこめられた思いを大切にしていこうという気持ちをはぐくむことができた。学んだことは、授業参観で、家族に伝えた。

単元の終わりには、和菓子の消費量や和菓子店の数が激減していることに触れ、今後自分たちの町のよさを受け継いでいくためには、どうすればよいか考え、意見を出し合った。

4年「金箔箔・金箔の伝統工芸」

金箔体験教室「金箔皿づくり」の制作を通して、金箔の美しさや薄さ、職人技のすごさを実感することができた。そして、「こんなに薄いこの金箔はどうやってつくるのだろうか?」「金箔はいつ頃からあるのだろうか」「金箔はどんなものに使われているのだろうか」などの疑問を持ち、学びを展開していった。

安江金箔工芸館へ見学に行き、金箔の99%が金沢で生産されているということ、金箔づくりの工程はほとんどが手作業であるということ、金箔の歴史などを学ぶことができた。また、箔打ち用の和紙づくりには浅野川が大切な水源となっており、右岸に位置している森山校下には、金箔を打つ職人さんが多くいたこと、しかし今では職人さんが減少しているという「金箔」の現状などを知ることができた。

金箔は金沢を代表する伝統工芸であることを知り、伝統工芸に関心を持った子どもたちは、他にも金沢の伝統工芸はないのかという疑問から、金沢の伝統工芸を調べることにした。そして、特に関心をもった伝統工芸を選んで詳しく調べ、調べたことを新聞にまとめて、調べた情報を交流した。子どもたちの多くは、それぞれの伝統工芸の特徴やよさを感じることができ、これからも伝統工芸を大切にしていきたいという感想をもっていた。

5年「もりやまっ子太鼓をつくろう」

地域に根づく和太鼓を守る人々の生きざまは音を通して感じるものである。子どもたちは、例年、六年生を送る会で演奏されているもみじ太鼓の音のイメージはそれなりに持っている。今年度も和太鼓の基礎練習を講師に依頼し、教えてもらうことにした。講師の方から太鼓にかける情熱や太鼓の歴史を学ぶことで、太鼓をたたく事への関心も高まっていった。和太鼓の歴史の中で特に関心を持ったのは、太鼓をたたくばちは「天に突き上げ」神様をお願いをするという由来についてだった。実際にたたいてみると、講師の方のようないい音が鳴らなかった。たたき方の姿勢や構え方を再確認しながら基本の動きを覚えていった。さらに、練習時間以外にも反復練習をくり返すことで、手先でたたいていた子が、体全体でたたくことができるようになっていった。気合いの入れる声も練習を重ねていく度に増していった。

そして、迎えた6年生を送る会の本番では、豆絞りを頭に巻き、気合いのこもった表情でもみじ舞を演奏した。この会を通して、全校に取り組んできたことの成果と和太鼓の良さを伝えることができた。

6年「思いを込めた加賀友禅 卒業証書台紙づくり」

本校では、20年以上6年生が加賀友禅の卒業証書台紙づくりに取り組んでいる。卒業式には、自分の加賀友禅の台紙の卒業証書を持ち、中学校への決意や将来の夢を語る。

子どもたちは、まず「加賀友禅とは何か?」を調べ、草花などを写実的な絵柄にし、「ぼかし」や「虫喰い」といった独特の技法を用いた品格のある染め物であることを知った。また、浅野川で行われる友禅流しは、金沢の風物詩となっていることなどを学んでいった。次に全工程のうち、青花下絵、糊置き、彩色、友禅流しの4つを友禅の職人さん方に教えていただきながら、実際に体験した。作業は細かく集中力が必要であることから、職人さんの苦勞に気づいたり、加賀友禅の仕事に誇りを持つ作家の生き方に触れたりすることができた。

さらに、「現在・今後の加賀友禅」を調べ、着物の売れ行きの減少、後継者不足などの厳しい現状を知り、「自分たちが今できることは何か」を考える学びへとつなげた。まずは金沢市民がこの友禅のすばらしさを再認識することが大切であるとの考えに至り、自分たちが作った「友禅卒業証書台紙」をより多くの人に見てもらいたいと考えた。金沢市の協力を得て、市役所エントランスホールに、加賀友禅卒業証書台紙作品を展示することができた。子どもたちは加賀友禅の学習活動を通し、地域の文化と人との絆を強め、伝統文化を大切に思う心を育むことができた。

3年 職人さんより和菓子づくりを学ぶ



4年 金箔皿づくり



5年 講師の方の和太鼓演奏



6年 浅野川での友禅流し



ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

金沢市小学校伝統・文化副読本 「華やか金沢」

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合的な学習の時間を中心に、社会科、国語科等、各教科のカリキュラムに位置付けてユネスコスクールとしての活動を行っている。体験活動を主体にして、学びを広げたり深めたりしており、どんな体験活動にどのように出会わせるか、どんな課題を設定しどのように課題を解決していくかを検討し、工夫している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

「人材バンク」というファイルを作り、活動内容や、ゲストティーチャーと連絡先を綴り、訂正や修正をしながら受け継いでいる。活動内容に加え、事前に準備することや注意事項、費用等を細かく書き、継続的に取り組めるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

- (成果)・森山の地域にある伝統産業や地域文化を教材化し、総合的な学習の時間を中心に、「つかむ」「さぐる」「整理する・まとめる」「広める」の4つの段階を大切に探究的な学習を進めることができた。
- ・子どもたちは、地域の良さを学んだことで、このすばらしい伝統産業・文化を大切にしていきたい、伝えていきたいという思いを持つことができた。
 - ・地域の文化・自然や人との絆を取り入れた体験的な学習を行い、“本物”に出会えたことで、職人さんの生き方や考え方も学ぶことができ、自らの生き方につなげていくことができた。
- (課題)・体験的な学習をさらに充実させ、課題意識をもって体験させたり、体験から学びを深めたりしていくことができるような題材の開発や指導の工夫をしていく。また、課題発見能力や問題解決能力を高める指導の工夫も必要である。学習課題に対する「学び方」について教師が共通理解を図り、子ども達に「学び方」を教え、積み上げていく事で、主体的な探究学習につなげていきたい。

⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

5年生は、もみじ太鼓の演奏を「6年生を送る会」で発表した。毎年5年生は同じ曲を教えてもらい発表しているのので、下の学年の子へ浸透しており、親しみをもっている。6年生の加賀友禅卒業証書台紙は、完成した作品を毎年金沢市役所のエントランスホールに展示している。より多くの人に見てもらい大変好評である。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

5年生は、地域のもみじ太鼓保存会の方に来ていただいて太鼓の演奏の仕方だけでなく由来や太鼓への思い等を教えてもらった。4年生は、「金沢仏壇協会」の方に金箔張りを教えてもらい、金箔の皿を作った。団体ではないが、3年生では、地域にある和菓子屋、お寺へ行き見学や体験を行った。また、地域に住む陶芸家に抹茶碗作りを教えてもらった。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項 2-4 に対応

特にしていません。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

児童は、地域文化に対する興味が高まり、理解も深まり、伝統を受け継いこうという気持ちが育っている。毎年同じ活動をしているので、児童は見通しをもつことができ、次の学年、これからの学年への期待や意欲が高まっている。の地域の方や保護者が温かい目で子ども達を見てくださったり、協力的に引き受けたりして下さることが多くなった。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

3 年生・・・和菓子文化にふれよう
4 年生・・・金沢の伝統工芸を学ぼう
5 年生・・・もりやまっ子太鼓を作ろう
6 年生・・・思いを込めた加賀友禅 卒業証書台紙づくり